

第42回衆院選挙で県内初の女性国会議員に当選した東門美津子さん。喜びのカチャーシーに湧く選対事務所で「沖縄の女性の力強さをあらためて感じた」と語った＝2000年6月25日、沖縄市の選対事務所



参院補選で初当選した島尻安伊子さん。2期目の2015年には沖縄北方担当相として県内女性として初入閣した＝2007年4月22日



全国的に貧困問題が注目される中、内閣府男女共同参画局の調査で高齢の単身女性は2割が年収120万円以下の厳しい状況にあることが分かった(2008年)。県内で行われた炊き出しで76歳の女性は「体調が悪くて仕事ができない」と訴えた＝2009年12月27日、那覇市の与儀公園



糸数慶子さんは2004年の参院選で初当選、06年の知事選で落選したが07年の参院選で振り返った＝2007年7月29日、那覇市の選挙事務所

2001年、県内の1小学校と3高校が男女混合名簿を導入し、「男子が先、女子が後」の見直しが本格的に始まった。入学式で五十音順で席に着く新1年生＝2004年、西原町の坂田小学校



米国人とアジア人の間に生まれた子どもたちが通うアメリジアン・スクール・イン・オキナワの創立十周年パーティーが開かれ、多文化教育を実現しようと母親たちの活動から始まった歴史を振り返った＝2008年6月1日、宜野湾市内



米軍基地撤去とオスプレイの配備反対を訴え、フェンスに赤いリボンやガムテープを結び付ける「カムドゥー小たちの集い」メンバーと、リボンをはがす米兵＝ 2013年4月19日、宜野湾市の野嵩ゲート付近

うるま市で発生した米軍属による女性への性暴力殺人事件に抗議する県民大会に6万5千人（主催者発表）が参加し、海兵隊撤去を求めるメッセージカードを掲げて怒りを共有した＝ 2016年6月19日、那覇市の奥武山陸上競技場



花を手に、性暴力を許さない思いで被害者に寄り添う「フラワーデモ in 沖縄」が県内で初開催され、女性たちが約1時間にわたって発言し思いを共有した。全国各地で毎月11日に実施＝ 2019年8月11日、那覇市の県民広場





多様な性を認め、性的少数者（LGBT）の人たちが生きやすい社会を目指すイベント「ピンクドット沖縄」が国内で初めて沖縄で開かれた。のべ800人が集まり、周辺をピンク色に染めた＝2013年7月13日、那覇市ぶんかテンプス館前広場

玉城知事を塾長に、女性たちが自身の能力を高め、活躍できる人材の育成と、互いに刺激し、励まし合いながら成長できるネットワークづくりを目的とした「ている塾」が開講＝2019年9月12日、那覇市の県男女共同参画センターている（おきなわ女性財団提供）



DVやストーカーへの対策を強化するため、県警に「子供・女性安全対策課」が新設された＝2014年4月1日、那覇市の県警本部



2017年12月、米軍ヘリが機体の一部などを宜野湾市の普天間第二小と緑ヶ丘保育園に落下させる事故が相次ぎ、保護者らが全国、海外にも危険性を訴えた。地域で報告会を開く保護者ら＝2018年3月11日、宜野湾市民会館



2022年の統一地方選は24市町村で行われ、過去最多の54人の女性が立候補し49人が当選。全市町村の女性議員の割合は過去最多の13.2%となった。北谷町では7人が当選し県内最多の36.8%となった=2022年9月14日



28年にわたり性暴力被害者を支援してきた強姦救援センター・沖縄「REICO（レイコ）」が、民間ボランティア組織としての役割を終えたとして活動に幕を下ろした。関係者がシンポジウムを開き、性暴力に苦しむ女性たちに寄り添い、性暴力への社会の意識を変え、支援体制を整える運動の歩みを振り返った=2023年9月24日、那覇市の県立博物館・美術館

米軍基地周辺の有機フッ素化合物（PFAS）による水質汚染問題では母親など地域住民が汚染源の特定や住民の血液検査、医療支援などを求めて運動した。県公害審査会への公害調停申請を報告する「宜野湾ちゅら水会」など市民団体のメンバーら=2025年10月27日、那覇市の県庁記者クラブ





那覇市の女性議員でつくる超党派の「ブーゲンビレアの会」は、2025年7月に女性16人が当選し全議員の4割となったが「5割になるまではまとまって声を上げる必要がある」と活動継続を市長に伝えた。活動を始めた2013年の女性市議は5人だった＝2025年9月4日、那覇市役所

戦後80年を迎えた慰霊の日、母ときょうだいの氏名が刻まれた平和の礎の前で「何十年たっても悲しい」と涙を流す女性＝2025年6月23日、糸満市の平和祈念公園



南城市長による市職員へのセクハラに抗議のスタンディングをする「ハートのまち南城人権ファーストの会」＝2025年3月17日、南城市庁舎前



ジェンダーレスで生理について考える出前講座や「生理の貧困」解消へ生理用品の配布などに取り組む沖縄キリスト教学院大の学生でつくるチーム「Ladybird(レディバード)」が、5月28日を「生理をジェンダーレスで考える日」に制定したと発表した＝2021年12月23日、西原町の同大



1999年、読谷山花織で県内4人目の人間国宝に指定された与那嶺貞さん。90歳の当時も毎日のように機の前に座っていた＝1999年5月21日、読谷村



首里の織物で1998年に県内3人目、女性初の人間国宝となった宮平初子さん。国内外の工芸系の賞も多数受賞し、工芸的な織物を美術工芸的な織物に深化させたとされる＝撮影年不明



機の子守歌に育ち、戦後の荒廃した沖縄で芭蕉布の復興に没頭。2000年に芭蕉布作りで人間国宝に認定された平良敏子さん＝2018年2月14日、大宜味村



沖縄戦で多くが失われた琉球の染織を研究して再現し、染織家、指導者として活躍。首里の織物で2023年に人間国宝となった祝嶺恭子さん＝2023年7月20日、那覇市



人間国宝となった、八重山上布保存会代表で染織家の新垣幸子さん。染織作家として活躍しながら、伝統技法の復活や後進育成にも尽力＝2024年7月18日、石垣市